

フランスの道路

フリーキャスター

林 美香子



昨年10月、フランスの農村景観と地域づくりを視察するツアーに参加し、ローヌアルプ地方などを回ってきた。フランスの農村景観の美しさと農業王国ならではの地域づくりの素晴らしさに感激した一週間であったが、バスで移動の際に利用した道路も、日本とは一味違うフランスらしさを感じた。

まずは高速道路の話から。リヨンから冬期オリンピック開催地だったアルペールビルまで高速道路A43を走ったのだが、道路全体のデザインが洗練されているという印象を持った。フランスでは、公共事業費の1パーセントを景観対策に使用するという法律ができ、それにより景観に配慮した優れたデザインの道路が増えているという。例えば、近隣の住居への騒音を防ぐための壁も、近隣で生産された木材を使い、美しくシンプルにデザインされている。時折「デザイン過剰かしら」と感じるものも見られたが、それらは初期に作られたも

のだとか。デザインの国フランスでも、さすがに試行錯誤があったのだろう。昔は町のすぐ側を走る高速道路もあったが、最近の高速道路は近隣住民への配慮から、住宅街の付近を通らないルート設定にするため、防音壁が不要の道路も多いそうだ。時代と共に、道路の作り方そのものも変化していると言える。

バスツアー中につくづく感心したのは、すっきりと美しい道路景観である。ゴテゴテとした看板や交通安全のための旗などが全くない。自然や田園の美しい景観を阻害するものがないことが、どんなに快適なのかを体感した。

沿道の町や村の観光スポットなどを紹介する看板も、北海道各地に立つカントリーサインに比べるとなんとシックなデザインなのだろう。北海道のカントリーサインはマンガ風のカラフルなものが多いが、フランスで見たカントリーサインは焦げ茶と白の二色のみでデザインされたもの。文化や国民性の違いもあるだろうが、あまりの差に愕然とした。これから観光を基幹産業にしていこうとする北海道。美しい自然や農村景観を大切にしたい道路景観作りを、官民挙げて推進していく必要があると痛感した。

一般道でも、フランスならではの秀逸なデザインを発見することができた。アルペールビルなど山岳地帯の道路の随所で、スッキリとしたデザインの木製の道路標識や丸太のガードレールを見かけた。地域経済振興策として地場産品を活用するため、近隣で生産される木材や丸太を利用しているようだ。例えば、道路の脇にガードレールとし



地場の木材を使った道路標識

て設置している丸太は特殊な塗料で腐食を防いだもので、実にシンプルなデザイン。長野県で導入が始まった木と鉄との組み合わせによるガードレールに比べ、とてもスッキリとしている。もっとも、「自己責任」が問われる国フランスだからこそ、シンプルな丸太のガードレールの設置が可能なのかもしれない。日本では、人身事故防止のための強度・耐用年数・費用など、さまざまな課題がありそうだ。だが、景観の向上・北海道の林業振興・温暖化防止（林野庁では、国産木材の利用により、二酸化炭素の削減を進める木づかい運動を実施している）のためにも、北海道の道路でも、木製の道路付属物の導入を検討して欲しいと願っている。

さて、交通面の環境対策も、日本より数段進んでいるようだ。フランス第二の都市リヨンは、美食で有名な町だが、最近は環境対策にも熱心に取り組んでいる。二酸化炭素削減のためにトラムカーを導入し、町の中心部には車の乗り入れができない広場を作るなど、町全体をリニューアルしている。また、リヨンの美しい町並のあちこちで見かけたのが、市民が自由に利用できる自転車スタンド。ポイントカラーの赤がキュートなデザインの自転車で、「オシャレにエコロジー」の推進役を担っているようだ。実際にこの自転車を利用して人々もたくさん見かけた。

現代社会には欠かせない便利な車だが、「持続可能な社会」を考えたら、その使い方を工夫しなければならない時代に入っているのだと思う。利便性の高い公共交通の導入、都心への車の乗り入



リヨンの貸し出し自転車スタンド



農家民宿についていた自転車用スタンド

れ制限、カーシェアリング、そして自転車の活用…リヨン市民は本気で環境対策に取り組んでいると感じた。

それにしても、フランス人の「自転車好き」は相当なもの。後ろに何台も自転車を積んで走る車や、農村地帯に整備されたサイクリングロードを走る家族連れ、農家民宿の庭に設置された自転車のための便利でオシャレなスタンド（洗車したり、パンクを修理できるようになっている）、道路脇のサイクリングレーンなど、さすがツールドフランスの国である。

最後に、道路に関して一番印象に残った話を紹介しよう。ローヌアルプ地方の美しい村ポッフオールで、名産のポッフオールチーズの聞き取りをした時のこと。1950年にパリから嫁ぎ、仲間の農村花嫁達と農家民宿を始めたエリザベラ・ピアレさんがしみじみと語った、「昔は道路もなく大変だったけれど、今はフランス中からバカンス客がきてくれて、村に活気も出て、とてもうれしい」という言葉。普段の生活で忘れがちな、道路の持つ根元的意義を思い起こさせられた。

林 美香子（はやし みかこ）

Profile

1976年北海道大学農学部卒業。同年、札幌テレビ放送アナウンサーとして勤務。1985年フリーキャスターとして活動を開始。現在FM北海道「MIKAKOマガジン」パーソナリティ、農林水産省「食と農の応援団」メンバーと幅広く活躍中。